

# 福祉文化通信

～well-beingへの道～

2006.7.1 vol.57



(編集委員) 大崎二  
安倍 長見清子  
長調 馬場  
馬場 山中

TEL&FAX 048(878)3793 ホームページアドレス <http://www.fukushibunka.gr.jp/> メールアドレス [jimukyoku@fukushibunka.gr.jp](mailto:jimukyoku@fukushibunka.gr.jp)

## 事業活動報告

2006年度が始まりました。6月11日には、新潟大会で発足した新しい理事会メンバーにより、今年度第1回目の理事会が開催され、様々な議論がなされました。そして今年度の事業についても様々な具体的なアイデアが提案されました。

去る5月2日には、第1回東京福祉散歩が行われました。当日はあいにくの雨でしたが、19名の参加者が、東京都内の社会福祉の歴史に登場するさまざまな史跡めぐりを行いました。普段なら見過ごしてしまうビルの間に、ある

いは大都会東京の緑のオアシスたる霊園の中に、それらの史跡がありました。その詳細が載っており、また今回講師を務めていただいた河島修さんの著作「福祉史を歩く 東京・明治」については、本通信の書籍紹介でも取り上げましたので、そちらもご覧ください。

また今年の全国大会は、埼玉県さいたま市にある浦和大学で行われます。現在、実行委員会を中心に企画を立てているところです。11月25日、26日に行われるこの大会にも



右：モスシーントンの墓の前で  
下左：藤井院  
下右：藤井院、福祉総合病院跡



東京福祉散歩



上：聖にルグ義老院入道者の墓  
右：東京国家学校跡



9月16日、17日に行います。今年海を渡り、佐渡での開催です。お寺で宿泊しながら、掘るまいか、明日はもうと、いい日の上映、社協の管理する温泉の視察、もちろん体験も。また佐渡ならではの朱鷺や郷土芸能の保存活動についても学ぶ予定です。また11月には昨年の大会での出会いを継続した動きにしよう、と韓国研修ツアーも企画されています。中国四国プロクでも、2月に広島県でプロク大会が行われます。さらに岡山福祉文化を語る会の開催も予定されています。また九州プロクでも、担当の日比野理事を中心に、福祉文化学ゼミの開催、九州プロクとして初のプロク大会が11月に長崎で行われる予定です。その他のプロクでも、例年の活動を引き続き行っていく予定です。





## 福祉文化創造の情熱を燃やそう

展がり 住居や施設の居住性の高まりなどにそれは現

さいたま大会のテーマは「福祉文化の創造」をキーワードとしています。福祉の分野はその昔文化活動からも、とも様違ひ世界として考えられていました。しかし、20世紀後半には衣食住のレベルさらには生食・自己実現をめぐりレベルに至るまで、文化活動の重要性が強調され、その具

体的条件を整えることが地域でも施設でも取り組まれて来ましたが、今日、ハ・ドの面では20年前にくらべればかなり文化的条件は進んで来たといえます。各種の集

会場の増加、バリアフリー、社会の

## インフメシ

## 第2回福祉文化実践学会賞の受賞について

去る6月11日に開催されました。2006年度第1回理事会の場で、第2回福祉文化実践学会賞の受賞者が、NPO法人音楽の哲理事長・松原徹に決定しました。選考については、福祉文化実践学会賞選考規定に基づき、5名の委員からなる選考委員会が

している人びとの行動や考え方を、じっくりと機会をいたしま

わけています。しかし、ソフトの面の質さが露呈しています。働くことで精一杯の人びとは、文化創造の情熱や時間が乏しくなっています。高齢者介護や障害者支援の現場では、制度の変更によって

それまでの文化活動を維持できなくなっている所も少なくありません。各種のNPOの文化活動も確

実は進展を見せていますが、それらは一部の人びとの献身的情熱に支えられているのが、実態でし

う。 今回の第17回大会では、最近の福祉分野を熱い始めた様ざまな波に抗して、力強く文化創造に挑戦

正なる審査を行い、2つの団体を候補者として選考、理事会の場で1団体に決定いたしました。授賞式は11月の全国大会の場で行います。その際、活動の紹介等も行う予定ですので、ぜひともご参加ください。

## 2005年度日本福祉文化学会年次報告書について

地方プロクスの活動が活発化してきたこともあり、通信だけでは、福祉文化学会全体の動きがつかめないことから、かねてより検討をすすめてまいりました年

している人びとの行動や考え方を、じっくりと機会をいたしま

す。障害を持ちつつ、地域や施設で展開している日々の文化活動、高齢期を生きつつ、なお価値観を豊かに高めようとする意欲、これらにふれて明日への元気を得たいと念じておられます。

会場となる私たちの浦和大学は、創立4年目の新しい大学です。今までのすばらしい大会とくらべる

とを期待しております。 第17回 日本福祉文化学会 ・さいたま大会 実行委員長 河島 修

次報告が、ようやく完成の運びとなりました。学会の各イベントだけでなく、各地方プロクスの活動の様子がわかりますので、こちらも是非とも一読下さい。

## 福祉文化実践報告集 第一号の刊行について

諸事情により刊行が遅れていました。福祉文化実践報告集 第一号が、ようやく刊行の運びとなりました。関係者の方々には、いろいろとご迷惑をおかけしました。この場を借りて、お詫びいたします。

## 福祉文化の風

浅井学園大学 相内 潤子

本誌では、2000年度の男女共学化以来、介護福祉学科と入学生男子学生が徐々に増え、本年度は新入生の割合以上が男子になった。全国的にも、介護系の専門系を志望する男子学生は増加傾向にあるとい

う。 介護とつらければ高学歴の介護は長い脚の踏むに値するもの。これ、家族の中にも、ばつがたその役割を引き受けてきた。シンタ

する文化。により、作り上げられ

てきたとあるのが一般的である。文化とは、社会の規範的価値観である。したがって、女性の介護職への参入は、性別規範と性別分業の壁が崩れ、福祉をめぐる新たな文化が到来したところを意味するものといえないだろうか。

介護現場に止まらず多くの男性が参入するインパクトは小さくない。その一つは、介護は女性の役割とされる固定観念を揺るがす結果、もう一つは、主たる担い手が女性のため抑制されてきた介護の労働環境が変化し、可能領域である。介護現場における、男女同業論は、品質の介護を推進する責任を、介護者の責任と保障する条件と重んじ合わせながら、実現させるにはならない。

## 新学会員 (6月13日現在)

## 〈個人会員〉

- 池田 守 (社福) 朝日新聞厚生文化事業団
- 岡崎利治 京都女子大学生活福祉学科
- 相川幸子 聖学院大学人間福祉学部 人間福祉学科
- 佐藤典子 社会副法人至誠ホームスオミ
- 鈴木靖弘 群馬社会福祉大学入試広報課員

## 〈学生会員〉

- 丹波早苗 浅井学園大学大学院
- 山崎登志子 浅井学園大学大学院
- 神部雅子 東海医療福祉専門学校 社会福祉学科
- 村田泰弘 長崎純心大学大学院 人間文化研究科
- 松坂淳子 長崎純心大学大学院
- 堀野裕司 日本女子大学大学院
- 大杉泰子 長崎純心大学大学院